

東アジア社会動態研究分野
Socio-Economic Dynamism of East Asian Countries

開発と環境：日本とアジア諸国の経験

Development and the Environment : the Experiences of Japan and Asian Countries

教授 藤崎 成昭
Professor
Shigeaki Fujisaki



“Development and the environment” are the primary focus of our laboratory. We investigate and analyze environmental issues faced by developing countries, keeping in mind the underlying North-South Conflicts regarding environmental issues. In 2009, two of the members conducted their research on the issues on “China RoHS and WEEE” in Beijing, China, and one of the members carried out his research on human security issues in the Philippines.

1993年から96年にかけてアジア経済研究所が中国国家科学技術委員会中国科学技術促進発展研究中心と共同で中国における一般市民(北京市・上海市)の環境意識に関する社会調査(世論調査)を実施していた関係で、足繁く通った北京を13年ぶりに訪れ、中国版RoHS、同WEEEの策定や運用に関する調査を行ってきた。中国は2009年米国を抜いて世界最大の自動車販売市場になった。また、2010年にも日本を抜いてGDP規模で世界第2位の経済大国になるものと予測されている。2008年の北京オリンピックに続き、2010年には上海万国博覧会が開催される。13年ぶりに見た「オリンピック後」の北京は正しく「別世界」の趣があった。最も驚いたのは著しく整備された都市交通網(特に地下鉄と空港アクセス線)である。13年前には1本しかなく実用にならなかった地下鉄が現在では既に10本近く供用に付されており北京市民の日常的な足になっていた。今回の調査ではすべての訪問先に地下鉄で出かけて行った。帰国時、空港へは空港アクセス線を使った。東京から成田に行くよりもはるかに短時間(30分弱)で済んだ。街で見かけて些か夢中にさせられたのが「プラグイン電動モーターサイクル」であった。北京市民は普通のモーターバイクの利用を禁止されているようで、そのためもあってここ数年急速に普及したという。ナンバー・プレートもなく自転車扱いだが、スピードがけっこう出る上に、音もなく近づいてくるので危険ではある。帰宅後バッテリーを自宅のコンセントで充電し、翌日また使う、という生活がありふれた光景になっているという。2008年に「中国の自動車メーカーが世界で初めてプラグイン・ハイブリッド車を開発」という報道があったが、然もありなん。中国の人達にとって「プラグイン」は既に日常のことなのだから。日本で電動二輪車に取り組んでいる小野昌朗氏は「中国では現在年間2100万台の電動二輪車が製造され、販売されている」(電動アシスト自転車の販売台数は日本で年間約32万台、欧州で約55万台という)と指摘した上で、「中国での普及を参考に日本や他の諸国でも普及が進むことが望まれる」と結論付けている(『季刊・環境研究』No. 155, 2009年)。

研究活動と社会への貢献

- 1)『アジア研ワールド・トレンド』1月号(第160号)に巻頭言「『地球市民』としての視点」を寄稿した。
- 2)上智大学地球環境研究所の「地球環境学」講座(輪講)に出講した(1月)。
- 3)宮城県企画部からの依頼で「環境負荷と負荷低減へのインセンティブー持続可能な未来に向けて」と題する論文を執筆した(2009年3月出版の「みやぎ政策の風」誌に掲載)。
- 4)明治大学平和軍縮研究所の研究プロジェクト「東アジア経済の将来展望」に参加した(～3月)。
- 5)国際協力機構(JICA)の環境社会配慮審査会委員としてJICAの実施するプロジェクト、特にA案件の環境社会影響に関する審議に加わった(～3月)。
- 6)中国、北京市で中国版RoHS及びWEEEの策定、運用状況の調査を行った(11月15日～25日)。

GCOEへの参加

生命科学研究所が2008年度からスタートさせたグローバルCOE「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」に実施担当者として参加している。2009年は「生態環境人材育成プログラム」の環境学実践マネジメント講座「環境マネジメント概論」の担当責任として講義を主催した。

教育活動

- 1) 地域環境・社会システム学コース、ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラム、環境フロンティア国際プログラムの教育に携わっている。
- 2) ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラムでは2008年10月よりインドネシア政府及びブラウウィジャヤ大学(東ジャワ州マラン市)と協定を結びリンケージプログラムを実施しており、同年10月より毎年学生(M)1名を受け入れている。
- 3) ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラムの学生をノルウェーでの国際会議、フィリピンでの調査に派遣した。



Electric motorbikes in Beijing.

詳細は次の通り。

- Gomez, O. (2009) “Lessons from the global change onset: Human security and the ‘four’ big pollution diseases of Japan”. Paper presented in the GECHS project Synthesis Conference, “Human security in an era of global change”, June 22-24 2009, at the University of Oslo, Oslo, Norway.
- Fellowship in the Third World Studies Center, University of the Philippines-Diliman, from October 5th to November 6th (2009). Research on the Filipino experience mainstreaming human security, with emphasis on its measurement.

- 4) ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラムの学生の論文が2008年に参加した国際会議のプロシーディングスに掲載された。- Gomez, O. and Fujisaki, S. (2008) “Beyond Rhetoric: Towards realization of Human Security from Asia-Pacific experience”. *The Proceedings of the Second International Conference on International Studies*, to be held in December 2008 by the Univeristi Utara Malaysia, Murdoch University (Australia), and the Institute of Diplomacy and Foreign Relations. pp. 89-103.
- 5) 環境フロンティア国際プログラムの学生1名を海外短期エコプラクティスのため中国、北京市へ派遣した(受入先: 中国人民大学(北京市)、期間: 11月15日～12月2日)。



Electric motorbikes in Beijing.